

歩くことを基本とする 「健幸」まちづくりのアドバンテージ

- ① 医学的な健康状態に好効果をもたらす
 - ☞ 生活習慣病及び寝たきりの予防
- ② ソーシャルキャピタルの向上に寄与する
 - ☞ 健康への好効果
 - ☞ 犯罪抑制への好効果
 - ☞ 防災及び災害時における好効果
- ③ 地域活性化への寄与
 - ☞ 住民の社会参加の増加
 - ☞ 賑いの創出
 - ☞ 商店街の売上増
- ④ 環境への配慮
 - ☞ CO₂の削減

Smart Wellness City 総合特区で実現すること

見附市・伊達市・新潟市・三条市・岐阜市・高石市・豊岡市・
筑波大学・つくばウエルネスリサーチ

超高齢化人口減社会の克服法としての社会技術の開発

「歩く」を基本とする『**健幸**』なまちの実現

健幸度(健やかで幸せに生きていることを評価する新たな統一指標)を向上させるため、従来の効果が見えにくい健康施策(アライバイ作り)から脱却し、エビデンスに基づいた住民の「健幸」に寄与する事業を、まち全体の総合政策として展開する。

今日の課題

便利

(convenience)

- ↓ 行き過ぎた省力化
- ↓ 生活習慣病の増加
- ↓ 医療費等社会保障費の増大

「便利」さの追求から、「自律」への価値観の変換が求められるが、...

社会イノベーション

(住民、自治体の価値観の改革)
社会技術の開発

次世代の「健幸」社会

自律

(autonomy)

- ↓ 自然に体を動かす生活
- ↓ 健康寿命の延伸
- ↓ ソーシャルキャピタルが高い「まち」
- ↓ 元気で役割を持つ高齢者
- ↓ 医療費の適正化

健幸になるためには、健幸になる住民、健幸になるための政策を実施する自治体、双方の価値観の改革「社会イノベーション」が必要

「社会イノベーション」を日本全国で展開するため、具体的な手法を地域特性に合わせて定型化した「社会技術」として確立

条例化・計画化

(価値観を改革するための決意)
住民の総意、自治体の本気度

自治体独自の条例化、総合計画等への位置づけ

自治体、住民の責任ある関与

まちの再構成

(過度な自動車依存から脱却)
歩きたくなる、歩いてしまう「まち」づくり

自治体横断的な取り組みからモデル化、パターン化

制度の壁の克服

健康クラウド

(アライバイ作りの健康政策から脱却)
エビデンスに基づく客観的評価

施策の妥当性を客観的に評価、検証、予測

健幸度の指標化、見える化

SWC首長研究会
(自治体、筑波大学)

地方から都市部、小から大規模都市が連携する多様な検証フィールド。それゆえ、全国の自治体に適用可能な社会技術の開発が可能

5年後のアウトカム

健幸度 (SWCが開発する新指標)

健幸度 25% アップ

(体力、日常活動量、ヘルスリテラシ、ソーシャルキャピタル、etc)

医療経済

医療費・介護費上昇率 20% 抑制

(医療費、介護給付金、要介護認定等)